在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信　2019/04　後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆ 特集　1◆　　本校の進路通信の歴史

毎年、月に２～３回発行している進路通信。昨年度は教職員向けに発行したものを含めて、３５回発行しています。本校のホームページでも公開しております（個人情報保護の観点から、一部内容を改変してある場合もあります）。

進路通信が現在の形態になったのは、実質的には平成１５年度からとされています。本校は、平成１５年６月に文部科学省から「学力向上フロンティアハイスクール事業」の研究指定（３カ年）を受けました。平成１８年３月発行の「最終報告」での進路通信に関する記述から、その歴史を見ることが出来ます。一部、当時の表記を直した箇所がありますが、その概要は以下の通りです。

１．進路通信の基本的な考え方

毎年膨大な量が発行される本校の「進路通信」は、次のようなコンセプトで作成されています。

①対象を「第〇学年生徒」「第〇学年保護者」「教職員」と限定せず、あえて「生徒・保護者・教職員」とすることで、本来「進路」に対して共通の認識を持つべきことが　望ましい三者間の情報の共有化を図る。これは三者間のコミュニケーションを図るための有効な手段となり得る。
②「進路」に関する情報といっても特に第１学年の生徒には、なかなか理解が困難であることが予想されるが、あえて３学年共通の情報を提供することで、この時期何をなすべきかということを３年間反復学習させ、強固に定着させる機会が生まれる。
③定期的かつ継続的に配布することで「進路」に対する意識の高揚、および学校に対する帰属意識の醸成を図ることが出来る。
④学校で何が行われているのか、実際のところ保護者にはなかなか見えない。学校では現在こういった進路指導が行われているということを保護者に知らせることにより、高校になると来校する機会の少なくなる保護者に高校に興味を持ってもらうことが可能になる。保護者の理解と協力とを得ることで、個々の生徒に対する進路指導の深化と学級担任とのよりスムーズな連携が期待出来る。
⑤本校の進路指導理念を十分に反映させた、意識的な情報提供が可能となる。

本校における現行の形の「進路通信」は、発行後５年を迎えようとしています。まさに「継続は力なり」の言葉通り、生徒はもちろんですが、説明会等で保護者と顔を合わせる機会があると必ず「毎号楽しみにしています。」「子供が出さない時は催促しています。」「鞄をひっくり返して取り上げてます。」と声をかけていただけるようになり、確かな手応えを感じることができるようになりました。

後は学級担任の先生方に是非有効活用をお願いしたいと思います。（中略）

実は「進路通信」を生かすのも殺すのも学級担任のコメント次第なのです。「最近、内容が面白くないな。」でも、「今回の号は難しすぎるな。」でも一向に構いません（中略）
担任の知識や経験から得た何かを、自分の言葉で生徒に話して欲しいものです。「進路通信」の真の役割は「きっかけ」作りなのかも知れません。

その以前の進路通信は、通知箋と一緒に同封する、教職員向けに発行するなど、発行数が少なく単発的なものだったようです。

現在では、学年通信や LHR 等で配布される進路指導の資料を含め、進路指導に関わる情報（スタディーサポートや模試のデータ分析も含む）をお知らせしています。

元号が平成から令和へ変わるにあたり、改めて本校の進路通信の持つ意義を再確認し、進路指導面では、時代が変わっても変わらない点、新入試を控え大きく変わろうとしている点について、思考力・判断力・表現力やアクティブラーニングなどの新しい学力観に関わる内容、予備校や事業所の各種研究会参加報告もこれまでと同様に掲載していきます。

◆ 特集　2◆　　大型連休への挑戦！　～計画学習のすすめ～

新学期が始まり、新学年で迎える学校生活にも少しずつ慣れてきた頃でしょうか。来週から大型連休に入ります。部活動の練習試合や大会など忙しい日々が待っている人も多いでしょう。４月はあっという間に終わったという人も多いでしょう。

さて、４月当初のことを思い出してください。「新学年からは勉強を頑張ろう」と思いを新たにした人も多いことと思います。その気持ちは、今どこにありますか？

４月から学習に取り組み継続している皆さん、是非この大型連休で途切れないよう頑張ってください。今回の通信は「学習を途切れないようにするため」「より質の高い学習をするため」に利用して下さい。

心配なのは、自分の意欲を心の奥底に沈めている人、何から取り組んでいいか分からず手をこまねいている人です。この連休を学習習慣づくりのきっかけとしてみましょう。自分を見つめ直す絶好の機会はそう多くはありません。

■センター試験まであと１年？　とんでもない。残りは１年の約７３％

表題にある通りです。入試までのこの「距離感（時間の感覚）」をしっかり自分にたたき込むことが大切です。３年生以外の人、無関係ではありませんよ。４月のこの時点で、大学入試センター試験までの１年間のうち、約４分の１の時間はすでに経過しています。残り１年の約４分の３の時間しかないのです。学習の密度や質を問う以前に、今から学習習慣を確立して絶対的な学習時間不足に陥らないよう、この大型連休の使い方を意識してほしいものです。

■　少しでも計画を立てて、見通しをもってやった学習が「勉強」である

湖陵生の皆さんに尋ねます。この４月どのくらい「勉強」しましたか。「勉強したら受かる可能性が増す」という言葉は正しいと思いますが、そこで使われている「勉強」の意味は、上に示した通りです。そこまで考えていなかったという人、今日からやり直しましょう。

■どうしますか？　今日からの「勉強」

計画や見通しをもって勉強すると一言で言っても、そう簡単なことではありません。簡単なことではないので、実行出来た人は、夢の実現へ近づけるのだと思います。関心を持って物事を考えているうちに、いつの間にか時間が過ぎていた経験をしたことはありますか？

先日、１年生の宿泊研修で進路講話を行いました。「忍冬」は「すいかずら」と読むことを知ったきっかけを話しました。「スイカズラ」と表記することで植物であることがはっきり伝わること、辞書にある解説の「常緑蔓性木本」の意味、特に「蔓」をどう読むかを、映像を見てもらい想像力を働かせて考えました。知らない知識を得ようとするときに、関心を少し持ってみることで得やすくなることが伝わっていれば、講話の目的は十分に達成されています。

■「計画」や「見通し」をつけるときのコツ

①達成したい目標を決める。
②取り組みたい内容を考えて、箇条書きにする。
③箇条書き例　　・４ＳＴＥＰのｐ〇～ｐ△　　・学校の宿題プリント２枚
④計画したことをどこでやるか、時間表に記入してみる。
⑤取り組んだら、「印をつける」など、終わったことを自分で確認できるようにする。
そして「自己評価」してみる。
☆　自己評価の方法
「仕上がり・理解・楽しさ」の３つを軸に、下の自己評価基準をもとに主観的に評価してみましょう。「楽しさ」は、勉強して「楽しかった・やってよかった・なるほどと思った・コツをつかんだ」などの思いで、特に主観的に評価をしてよいです。

「Ｓ＝仕上げた 〇　　理解できた ◎or〇　　楽しさ ◎or〇」
「Ａ＝仕上げた 〇　　理解できた 〇or△　　楽しさ 〇or△」
「Ｂ＝仕上げた 〇or△　理解できた △or×　　楽しさ △or×」
「Ｃ＝仕上げた ×　　理解できた ×　　楽しさ ×」

⑥これがコツの中のコツ　→　「ふりかえり」
・大型連休最終日、計画と実際の達成度合いとを比較して、考えたことを書いてみる。
・「よかった」「よくできた」「あまりできなかった」「半分しかできなかった」などと単純化しないことが一番大事。それは、計画表と終わった印をみれば他人でも書くことができる。他人でも書くことのできるものならば、あまり書く意味がないですよね。書く意味は自分で作るのです。足りなかったもの、うまくいかなかった原因、うまくできた理由などを、単純化せずに入れられるだろうか。

■大型連休の計画を考える

（　）年（　）組（　　）番　氏名（　　）

①期間中に達成したい目標を決めます。

②各教科で取り組みたい（取り組まなければならない）ことを箇条書きにして整理します。

【教科名　　】

	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ
	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ
	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ

【教科名　　】

	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ
	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ
	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ

【教科名　　】

	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ
	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ

【教科名　　】

	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ
	Ｓ・Ａ・Ｂ・Ｃ

☆　欄は作りましたが、全教科せよという意味ではありません。個人の作戦にゆだねます。

③計画したことをどこでやるか、時間表に記入してみる。（登校日も含む）

	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6
6:00										
7:00										
8:00										
9:00										
10:00										
11:00										
12:00										
13:00										
14:00										
15:00										
16:00										
17:00										
18:00										
19:00										
20:00										
21:00										
22:00										
23:00										
24:00										

■ふりかえり
